



神戸常盤大学

# キャンパスレポート

2022.12  
No.66

## 建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

[www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/](http://www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/)

## KOBE TOKIWA 健康ふれあいフェスタ2022

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年度より開催を中止しておりました『KOBE TOKIWA健康ふれあいフェスタ2022』が、お陰を持ちまして3年ぶり11回目の開催を無事に執り行うことができました。感染状況が完全に収束していない状況で、感染対策を徹底した中での開催でしたが、515名もの来場者にお越しいただく事ができました。来場者数も全く未知数の中での取り組みとなりましたが、たくさんの地域の方々に楽しんでいただけたのではないかと考えております。

このフェスタは、近隣の子どもから大人、お年寄りまですべての世代の方々と交流を目的とした、この時期に巡ってくるサーカスのように地域の方々が楽しみにしてくださっているイベントです。開催できたことに、改めて感謝したいと考えております。

構内各エリアは、大盛況で人が一日中途切れることなく賑わっていました。

例年メインホールで実施している臨床検査技師会による健康チェックは、今年は2号館2階での実施となりましたがやはり長蛇の列。1階と3階でもこども向けプログラムを実施しており、2号館はこどもからお年寄りまでたくさんの来場者で賑わいました。

また今年より診療放射線学科が新たにプログラムに加わり、「乳がんを知ろう!」や「診療放射線技師さんになろう」など、さらに幅広い企画を実施することができました。また今年は特別企画として鳥取大学より浦上克哉先生にお越しいただき、「今しかできない! 認知症予防講座」を開催。申込定員はすぐに満員となり、当日の来場者が真剣に耳を傾ける様子などがうかがえました。



臨床検査技師による健康チェック



今しかできない! 認知症予防講座



診療放射線技師さんになろう



## 保護者のためのオープンキャンパスを開催しました

保護者のためのオープンキャンパス 委員長 牛頭 哲宏



コロナ禍が始まって3年、一日も早い収束と皆様の健康を願いますとともに、感染防止や治療・診療にご尽力いただいているすべての皆様に深く感謝いたします。

さて、9月10日の午後、神戸常盤大学での初めての試みである全学保護者会「保護者のためのオープンキャンパス」を開催いたしました。当日は112組157名の学部3年生・短大部2年生の保護者の皆さんに足を運んで頂き、全体会・キャンパスツアー、そして各学科の説明会を通して本学の教育に関する理解を深めて頂きました。

全体会は、司会者の谷口先生の流暢な進行のもと濱田学長、中村法人本部長の挨拶に引き続き、本学の卒業生による「ときわトークライブ」を行いました。最終学年である最後の1年をどのように過ごしたのか?から始まり、就職した喜びと理想と現実について経験を交えながら和やかなトークが展開され、これからのときわびとである3年生2年生の皆さんに対するアドバイスを熱く語っていただきました。

全体会の後はキャンパスツアーです。歯科診療所や学内コンビニ、各学科の特徴的な施設設備を見学していただきました。その後、各学科の説明会場で、実習や就職、あるいは個別

相談など、保護者の皆様が一番お聞きになりたい情報を提供させていただきました。最後の保護者がお帰りになったのは17時を過ぎておりましたが、気持ち良く笑顔で帰っていただくことができました。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

来年度は、さらに改善と工夫をこらし、より保護者の皆様に満足していただける行事へと進化させてまいりたいと考えております。

今後も本学の教育にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



キャンパスツアー 歯科診療所



卒業生による「ときわトークライブ」



学科説明会での実習や就職説明

# 実習体験記

## 看護活動基礎実習を終えて



看護学科 1年  
小森 美璃

入学してはじめての実習は、新型コロナウイルスの影響で学内実習に変更になりました。私は、病院実習を経験できないことに不安を抱いていましたが、先生方の配慮のおかげでたくさんのことを学ぶことができました。特に、「看護と環境」について考えを深めることができました。環境は、療養生活中的の患者さんに大きな影響をもたらします。患者さんにとって普段と違ったストレスは治療への意欲の低下をもたらします。そうならないようにするために、看護師が病床に新聞を用意したり、外の天気のことについて話をしたりして患者さんが病気以外のことに目を向けるように援助されていました。私は、実際に身体に触れるケアの他に環境に変化を加えることも看護なのだと思え、驚き感激しました。今回の実習での学びを、今後の成長につなげていきたいと思っています。

## 基礎看護学実習を終えて



看護学科 2年  
木高 優衣

私が実習で受け持ったBさんは、脳梗塞の影響で右上下肢に麻痺があり、膀胱カテーテルを留置していました。Bさんは順調に回復していましたが、実習6日目、尿路感染症による腎盂腎炎を起こしました。発熱のきっかけとなったのは、数日間続いていた発熱です。構音障害のあるBさんは、自分の体調不良を訴えることが難しい状態でした。しかし、毎日バイタルサインを測定することで、体調の変化を発見することができました。

この体験から、バイタルサインの測定は、毎日のルーティーンとして決められた項目をただ測定するのではなく、患者さんの病気やリスクを考慮した項目を選択して測定し、その変化を観察することが大切であることを学びました。Bさんの看護を通して、看護の基礎的な部分の重要性に気付くことができました。この気づきを今後の学びにつなげていきたいと思っています。

## 小学校実習を終えて



こども教育学科 3年  
村上 七海

小学校で過ごした4週間は短く、一瞬で過ぎていきました。初めは実習への緊張から、自己紹介で言いたい言葉が出てこず、全校児童を前に沈黙の時間が流れました。また、児童との距離感が掴めず、最初の授業もやりたいことがやれず、前途多難のスタートでした。

実習中は児童と過ごす時間を何より大事にしながらも、指導案を何度も書き直し、授業研究に時間を費やし、1日があっという間に終わってしまいました。その一方で、児童の明るさ、無邪気さ、いつも元気付けられ、忙しさよりも児童たちを第一に考える先生方の熱意に胸を打たれ、やりがいや楽しさ、そして教職の素晴らしさを実感する毎日でした。

そうして迎えた研究授業では、クラスの半数以上が手を挙げてくれ、最後の日にはクラスのほぼ全員が涙して送り出してくれたこと、あの光景は今でも忘れられません。また、こどもたちや先生方から、「いい先生になって戻ってきて!」と言ってもらえたことを胸に、ここからさらに努力を重ねていこうと思います。

## 保育実習を終えて



こども教育学科 3年  
山本 奈穂

今回の保育実習では「ドキュメンテーション」という話し合いに参加させていただきました。この取り組みは、子どもの活動を写真や動画、音声、文字などで視覚的に記録するというものです。

0歳児クラスでは「氷絵の具で遊ぼう!!」という活動に注目しました。それはジップロックに絵の具と画用紙を凍らせたものを入れて、感覚や色を楽しむ遊びです。その時の写真を画用紙に貼り、子どもの様子や、先生がその時子どもに掛けた言葉を書き添えてまとめておられました。話し合いの中では、子ども達の行動の意味や、先生の保育の意図を知ることができました。それは、私にとって今まで全く気付かなかった視点でした。

参加した後は、子どもの発達を意識して関わり、先生の言葉かけや環境構成の意図についても考えながら実習に臨むことができました。また、子どもに育ってほしい内容を意識して援助、言葉かけができるようになりました。

将来保育者となったときには、今回の実習の経験を活かして、豊かな言葉かけをして子どもの感性を伸ばし、様々な体験をさせてあげられるような保育者になりたいです。

## 臨地実習を終えて



口腔保健学科 3年  
窪田 真子

2年生後期から10ヶ所近くの実習先に行きました。様々な実習先を訪れて、実習挨拶や初めて患者様と接する時など何度も緊張感を味わいながら多くの学びを得ました。臨床現場では指導者からの助言、患者様の言葉など全てが学びです。実際に患者様や対象者の状態、処置、配慮をすることで、学内での学習が繋がり、より「患者様のため」を考えるようになりました。同時に知識不足を痛感し、自分のわからないことを知る機会にもなりました。わからないことを調べて考えて質問して理解する、この繰り返しで自分の知識が深まり、学び続けることの大切さを実感しました。そして、自分から能動的に行動することで指導者に教えていただけたことが増え、自分の意欲によって学びの深さが変わることに気づきました。実習期間は目の前のことで精一杯であったため、今後は広い視点から患者様に対応できる歯科衛生士になれるよう、向上心を持ち続け成長していきたいです。残り少ない学生生活、実習を乗り越えた仲間と共に国家試験勉強に励みたいと思います。

## 前期を振り返って



医療検査学科 4年

井櫻 雄斗

私は細胞検査士養成課程で学んでいます。このコースを選んだ動機として、細胞診はスクリーニングによって診断や治療法が決定し、患者の予後を変えることがあります。このような責任ある分野を極め、患者に最も重要と言える診断に関わり、役立ちたいと思ったからです。最初に思ったのは授業数がとても多いことです。しかし月日が過ぎていくほどそれにも慣れました。全部で50名の細胞検査士コースの先生方には細胞診を極められた先生や業界で有名な先生が多くおられ、毎日の講義では必ずと言っていいほど新たな知識が入ってくるため、楽しく思っています。新型コロナの終息がみえないですが、毎日細心の感染対策を行っています。コロナ禍は医療従事者を目指す私たちに、医療の観点からどのように考え、どのように対処していくのが試されているように思えます。まさに今すべきことを考える良い機会となっています。頑張っ



診療放射線学科 1年

宮里 彩花

入学した直後は、慣れない土地だったこともあり不安でいっぱいでした。しかし、そんな不安とは裏腹に、友達もでき、授業にもすぐ慣れました。主に対面での授業が多くあったので、苦手な科目もつまずかず、分かりやすく学ぶことができました。

また、グループでの活動や話し合いも多くあり、特に「まなぶる」ときわび」という授業では、同じ学科の人だけでなく、他学科の人と関わり、チーム医療に必要なコミュニケーション能力から情報の活用方法まで、様々なことを学ぶことができました。他にも、授業の中で、プレゼンテーションをすることが多く、人前で話す機会が増えました。そこで、情報収集能力や要約力、オーディエンスを引きつける話し方を学ぶことができました。

後期では、前期で学んだことを生かし、視野を広げ、様々なことに挑戦していきたいと思います。そして、より学習を深めていきたいです。



看護学科通信制課程 1年

林 新

私は現在、准看護学院で先生や看護師の方々の補助のようなかたちで教育に携わっていますが、これから教育者として向き合うこととなり、この課程で学ぶ決意をしました。スキルアップは必須だと漠然と感じていたことと、ひたむきに勉学に励む現役学生をみていると、自身のスキルアップすることへの気持ちが増し、家族や職場の理解と協力を頂き、大きな希望を抱きながら入学を決意しました。

各科目の課題レポート作成は、正直厳しくつらいと感じることがあります。しかしこの学習を通じて新しい知識や看護への考えが深化していることに気づき、それ以上に学ぶことの楽しさを感じています。さらに同じ志を持つ仲間と出会い励まし合い、先生方からの懇切丁寧なご指導等に支えられ、そのことを前に進む力に変え目標達成に向け日々努力を続けています。感染症拡大の影響で、勤務や今後の学習、実習に不安を感じていますが、次の目標である臨地実習に向けて頑張りたいと思います。

## KOBE TOKIWAオープンキャンパス2022

学生と教職員が一丸となり、全6回のオープンキャンパスを開催いたしました。コロナ禍の中、マスク着用や手指消毒などの感染対策を徹底しながらの開催となりました。体験学習や個別相談、キャンパスツアーを通して、大学生活のことや、リアルな学生の雰囲気や来場者の皆様に体感していただきました。



総合受付の様子



診療放射線学科の総合説明会



先輩と一緒にキャンパスツアー!



マネキン模型で歯科衛生士体験



こども教育学科の総合説明会

# 福島県浜通り研修(令和4年8月21日から8月26日) 体験記

保健科学部 診療放射線学科 教授 高久 圭二



未来を担う若者に、放射線と福島を正しく理解する機会を届けたいというコンセプトで行なわれた福島県浜通り研修(放射能と社会)に組織委員として参加しました。本研修には本学学生が2名参加しました。今年度は8月と9月の二回に分け、飯舘村と大熊町にそれぞれ分けて行い、町や村の帰宅困難地域での主に土壌の放射線量測定サンプリングに加えて、今後どのように地域づくりをしていくかなど、講義、学生同士の討論などを通して

学んでもらいました。土や植物のサンプリングの測定と平行して、社会がどうあるべきか等の活発な議論が繰り広げられました。8月は本学の学生1名もコロナ感染でキャンセルとなるなど、当初予定していた学生の2割弱が来れなくなりましたが、7大学(本学、大阪、和歌山、高知工科、尚絅学院、明治、岐阜)から55名が参加しました。昨年実現できなかった住民との交流会では、「先祖代々受け継がれてきた肥沃な土地を除染で剥がされるのは、皮膚をはがされるような苦痛だ」と言っていたのが印象に残りました。また、昨年実現できなかった福島第一原発の見学も行いました。参加学生は昨年度参加学生等も加えて本学に「ベクレル同好会」を立ち上げました。本学からのご支援、感謝しております。



サンプルの放射線濃度を測定



福島第一原発を見学中

## こども教育学科教育プログラムの開発「ときわの森おはなしとあそびのひろば」

教育学部 こども教育学科 教授 中西 利恵



こども教育学科では、学科将来構想「ときわ学びの森(ときわラーニングフォレスト)プロジェクト」の実現に向け、令和5年度より義務教育コース[小・中(理科)免]と保育・幼児教育コース[保資格・幼免]の2コース制の新課程設置を準備しています。新課程導入にあたり、より魅力的なカリキュラムと教育方法の

開発及び充実を図っています。その一つとして、保育・幼児教育コースでは全学年が同じ活動に参加して協働で学ぶ実践を軸とした、段階を追った“先生力”の育成をめざす教育プログラムの開発に取り組んでいます。その試行的取組として、地域の未就園児とその保護者を対象に「ときわの森おはなしとあそびのひろば 第1回」を実施しました。キャンパス内で開催し、正課教育としての展開方法を探っています。第1回は、人形劇や紙芝居のひろば(おはなし)と忍術ランドのひろば(あそび)を展開しました。第2回は12月1日に実施し、年度内で3回の試行を予定しています。



おはなしのひろば(人形劇・紙芝居)



あそびのひろば(水の上歩きの術コーナー)



## ときわ幼稚園通信



ときわ幼稚園 教諭  
榎原 智菜美

ときわ幼稚園には未就園児クラスのちゅうりっぷ組があり、週3回登園しています。幼稚園に入園する前に少しずつ集団生活を経験し、幼稚園に慣れて楽しく過ごすことができるようになってほしいという願いをもって保育をしています。

入会当初は保護者と離れることに不安を感じて泣いたり戸惑ったりする子どももいましたが、今ではいろいろなことに興味をもち、自分のやりたい遊びを見つけて楽しめるようになっていきます。

また、ちゅうりっぷ組では様々な遊びや生活を経験する中で、身の回りことは自分でやってみようとする基本的な生活の自立につながるよう、一人一人に合わせた関わりも大切にしています。自分でできた時の「できたよ!」「見てて!」と喜びを伝える表情は生き生きとしています。

これからも、「幼稚園って楽しい!」「〇〇して遊びたいな」など子どもたちの好きな遊びから興味や関心が広がるような関わりを大切にしていきたいと思っています。



「パーティーしよう!」



## これからの若手世代

医療検査学科 6期生 福谷 吏輝丸

あっという間に大学卒業から約6年が経ってしまい、年々時間の過ぎる速度が早くなっていき、時間の大切さを身に染みて感じるようになりました。

働き始めの頃は仕事を覚えることに精一杯でしたが、今回とある機会があり第71回日本医学検査学会と第72回日本病院学会で発表させていただきました。発表内容は検査に特化したものではなく、病院システムについてのものでした。

その発表の準備でものすごく考えさせられた内容が、近年の少子高齢化による医療環境が昔に比べて大きく変化してきているということです。

話では知っているつもりでしたが、実際に自分で調べる中でとても身近に感じ、危機感を抱きました。働き手の人数は減り、患者さんが増えるということは示唆されているため、偉そうなことは言えませんがこれからの僕たち

ち世代が個々の能力をもっと発揮していかなければならないと考えています。現在の時代の流れは早く、行動を起こさなければ残っていけない世の中だと思うので、試行錯誤してみんなで日本を発展させていきましょう。



学会会場にて

## 初年次教育学会にて本学が表彰されました

こども教育学科 学科長 光成 研一郎

皆さん問題です。これまで「まなぶる▶ときわびとI・II」をご担当いただいた教職員は総勢何名になるでしょうか?正解は52名です。小規模大学である本学で実に52名もの教職員にご担当いただいたのですね。

教材を準備してくださる準備チームの先生、教育方法や内容を毎年改善してくださるコンテンツ作成チームの先生、オリジナルの授業評価を作成し、授業全体をアセスメントしてくださるアセスメントチームの先生、このように多くの先生の工夫と努力でこの授業は成り立っています。毎回授業開始前・後の約30分(計1時間)を授業準備打ち合わせ、ふりかえりの時間として、担当者が意見交換していること、これ以上のFD活動はないと考えます。

2017年より絶えず授業改善し続けた結果、初年次教育学会実践賞をいただくことができました。他大学では絶対にまねできない常盤オリジナルの実践です。だからこそ優秀賞をいただけたのだと思います。現状に満足することなく、絶えず改善し続ける授業にしたいですね。



表彰状と光成先生

診療放射線学科 特任教授 谷口 英明



今年度も多彩な講師の方々にお世話になりました。第1回は日本の防災研究の第一人者、室崎益輝神戸大学名誉教授による「災害復興と減災文化」。ご子息の口腔保健学科・室崎友輔講師も特別参加、親子で質疑応答などもあり、減災文化について新しい学びを得ました。

第4回は京都・光照山蓮久寺の三木大雲住職による「怪談説法」。友人の放送作家、柳田光司さんとのテンポの良いトークショー形式で、実際にあった怪奇現象や自身の体験などの怪談を説法へとつなぎ、死生観が変わる仏教の教えを説くもので、マスコミで活躍するお二人の巧妙な話術に引き込まれました。余談ですが、老朽化した蓮久寺の修復に莫大な費用がかかるため、諦めていた時、夢に出た大黒様のお告げ通り宝くじを買ったら、1億5千万円が当たって修復費用に充てたという奇跡体験には驚愕しました。



柳田光司氏とのトークショー

第5回は朝日放送テレビで活躍中の桂紗綾アナウンサーでした。桂アナといえば、本業以外に、桂春蝶さんらの指導で落語に挑戦。持ち前の頑張りで「社会人落語日本一決定戦」で決勝まで進出した実力者です。頼りないアナが放送デビューする「初鳴き」という創作落語で、難読原稿を見事に読み切る早口言葉に拍手喝采でした。



落語を披露する桂紗綾アナ



三木大雲住職

## 第56回 常盤祭を終えて

10月29日に学園祭「第56回常盤祭」を開催しました。今年のテーマには「常盤の青春再始動。Re:青春祭」を掲げました。スタッフ全員で力を合わせて成功させたいという願いや、この常盤祭を皮切りに様々なイベントが再始動してほしいという思いを込めました。

3年ぶりの有観客での開催だったため、感染対策を万全に準備を進めてきました。その甲斐あって大きなトラブルも無く、無事に終えることが出来ました。

「ハンプレッダーズ」のLIVEや、模擬店・野外ステージ・常盤祭恒例のお化け屋敷はいかがでしたか。

テーマに込めた思いを胸に、スタッフが丸となり取り組んだ結果、大成功という形で終えることが出来ました。来年は、今年を超えたものとなるよう願っています。

最後になりましたが、常盤祭にお越し頂いた皆さま、地域の皆さま、ご支援・ご協力を賜りました関係者の皆さま、心より感謝し、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

常盤祭実行委員長 こども教育学科 2年 由利 琴羽



学生バンド玉響の演奏



ダンス部のTwice/FANCY



学生による模擬店

財務情報につきましては、本学園のホームページをご覧ください。

発行・編集 神戸常盤大学 広報委員会 〒653-0838 神戸市長田区大谷町2-6-2 ☎(078)611-1821(代)